

# 再評価結果（平成21年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課

担当課長名：深澤 淳志

事業名	道央圏連絡道路（一般国道337号） 新千歳空港関連		事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 北海道開発局
起終点	自：北海道千歳市平和 至：北海道千歳市泉郷中央			延長	9.2 km	
事業概要	道央圏連絡道路は、千歳市から札幌市を經由し小樽市に至る延長約80kmの地域高規格道路である。このうち新千歳空港関連は、千歳市から北海道横断自動車道千歳東ICに至る延長9.2kmの区間で、新千歳空港へのアクセス、物流効率化に寄与する路線である。					
H元年度事業化	H7年度都市計画決定		H2年度用地着手		H2年度工事着手	
全体事業費 （暫定2車線）	約683億円 （約577億円）	事業進捗率 （暫定2車線）	73% （86%）	供用済延長 （暫定2車線）	1.6km （0.9km）	
計画交通量	17,000～27,300台/日					
費用便益 分析結果	B/C （事業全体） 1.8  （残事業） 6.6	総費用 （残事業）/（事業全体） 176/801億円 事業費：158/776億円 維持管理費：18/25億円	総便益 （残事業）/（事業全体） 1,168/1,466億円 走行時間短縮便益：898/1,112億円 走行経費減少便益：183/246億円 交通事故減少便益：87/109億円	基準年 平成20年		
感度分析の結果	残事業について感度分析を実施 交通量変動：B/C=7.3（交通量+10%） B/C=6.0（交通量-10%） 事業費変動：B/C=6.1（事業費+10%） B/C=7.3（事業費-10%） 事業期間変動：B/C=6.5（事業期間+1年） B/C=6.8（事業期間-1年）					
事業の効果等	・国土・地域ネットワークの構築（地域高規格道路の位置づけあり） ・円滑なモビリティの確保（現道等の年間渋滞損失時間（人・時間）及び削減率） ・物流効率化支援（空港法による空港もしくは供用飛行場へのアクセス向上が見込まれる） 他7項目に該当					
関係する地方公共団体等の意見	小樽港、石狩湾新港、新千歳空港、苫小牧港を抱える地域で、これらを短時間でかつ安全に連絡する道央圏連絡道路は、地域の発展に寄与するとして、5市3町の首長で構成される道央圏連絡道路整備促進期成会等より早期整備の要望を受けている。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	・平成11年度には北海道横断自動車道の千歳恵庭ジャンクション～夕張IC間が供用。 ・平成16年度には美原バイパスが全線供用。 ・当該道路周辺の空港や港湾では、乗降客数及び取扱貨物量が増加している。					
事業の進捗状況、残事業の内容等	平成20年度末までにL=2.5kmが供用しており、現在の事業進捗率は73%となっている。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	引き続き事業を順調に進んだ場合、平成20年代前半の暫定2車線供用を予定している。					
施設の構造や工法の変更等	鋼コンクリート合成サンドイッチ床版の使用により、コスト縮減を図っている。					
対応方針	事業継続					
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。					
事業概要図						

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。